



5つの柱で 子どもたちへ豊かな学びを

問 学校教育課 TEL(36)5538・FAX(32)3352

教育長から

4月1日に近江八幡市教育長に就任した大喜多悦子です。それぞれの学校(園)では、新しい生活様式にあわせて、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら教育活動を進めています。子どもたちの安全や安心を最優先に、人とつながる豊かな学びを保障し、学校が安心できる居場所にもしていきます。「これまでに誰も経験したことがない」という言葉をたびたび耳にします。これからの子どもたちには、変化し続ける社会の中でも夢や志を持ち、持てる力を最大限に活用し、協力しながらたくましく生き抜くことが求められます。このようなことを踏まえ、今年度は次の5つを教育行政の柱としました。

近江八幡市教育長

大喜多悦子



1 「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」運動の充実

今年度で15年目を迎えるこの運動は、基本的な生活習慣を確立するうえで根幹となるもので、本市の教育施策を進めるうえで大切にしています。

早寝・早起き

眠りは心身を休養させ、からだをつくり、学習意欲を高めます。習慣化することで、正しい生活リズムが身につきます。

あいさつ

あいさつは人とつながる第一歩です。また、良好な関係を築いていくための生きる知恵です。

しよくじ

朝食は一日の元気の源です。朝ごはんのエネルギーで体温が上がり、脳と体の働きが活発になり、やる気を生み出します。

どくしょ

読書は、知識や読解力を高めるだけでなく、感じたことや疑問に思ったことを調べたり、共有したりする「きっかけ」になります。また、新しいアイデアや表現方法を得ることもつながります。

うんどう

たくましく生きるための健康や体力を養います。また、相手への敬意や思いやりの気持ち、仲間と協力することの意義を学び、心の成長にもつながります。



2 生き抜く力(学ぶ力)の向上

グローバル化が進む中、これまで以上に、国内に留まらず世界で活躍する人が増えていくと予想されます。本市で活躍する人も、世界で活躍する人も、胸を張って自分が生まれ育ったふるさと近江八幡を語れることこそ、この「ふるさと教育(学習)」のねらいです。本市「教育大綱」の基本理念にある「ふるさとに愛着と誇り」を心から実感できるような地域の特色を生かした「ふるさと教育(学習)」を目指しています。豊かな自然や先人が築いてきた文化を教材として、地域の皆さんとのふれあいの中で豊かに学べるように、社会科副読本「わたしたちの近江八幡」の改訂などに取り組みます。

新しい学習指導要領では、将来の予測が困難な社会を生きていくための資質・能力の育成を目指しており、それぞれの学校で授業改善を進めています。

これからの社会で求められているのは、「文章を読んで理解し、実生活に活用する力」や「答えのない問題に、自分で考え、対話や協働して最適解を導く力」、「さまざまな情報から必要なものを選択し、自分の考えを正確に伝える力」

などです。これらの力を身につけるために、技術革新が著しいICT機器を鉛筆や消しゴムと同じような道具として活用することが求められています。

昨年度末に一人一台のタブレット端末を整備しました。個々に合った学びとともに、仲間と考えを共有したり、一つのものを作りあげたり、周りに発信したりすることを通して、学ぶ力の向上を目指します。

3 「ふるさと教育」の推進



4 コミュニティ・スクールの推進

子どもを取り巻く環境や学校(園)が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校(園)と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、「地域とともにある学校づくり」を一層進める学校運営の新たな仕組みです。これまで段階的にコミュニティ・スクール化を進めてきましたが、今年度から市内すべての公立幼稚園、小・中学校でスタートさせました。地域の皆さんに学校運営に参画いただき、学校教育の目標やビジョンを共有して「元氣な学校!」「元氣な地域!」づくりを進めていきます。

5

コロナウイルス感染防止・ 「WITH CORONA」の考・動の確立



新型コロナウイルス感染症は、学校の教育活動も含め、私たちの生活に大きな影響をおよぼし、生活スタイルの見直しを進める機会にもなっています。学校では、「マスクの着用」「うがい・手洗いの励行」「三密の回避」「定期的な換気」「適切な消毒」を実施し、ウイルスに関する正しい知識、医療従事者などに対する感謝の気持ちなど、心の育成にも取り組んでいます。また、子どもたちが感染しても、誹謗中傷や詮索、差別がなく、安心して過ごすことができる学校づくりを進めます。